

平成26年度第2回岡山市障害者施策推進協議会

会議録作成：岡山市障害福祉課

- ・日時：平成27年1月15日（木）13時30分から15時まで
- ・場所：岡山市保健福祉会館4階 こころの健康相談室
- ・出席者：委員10名
- ・その他：報道関係者1名、傍聴1名
- ・作成方法：録音テープを使用した要点記録
- ・議題と主な意見

(1) 岡山市障害者プラン及び第4期岡山市障害福祉計画（素案）について

(委員) 第3期実績に比べると第4期目標は下がっているように見える。全体的な流れとして、地域生活へ移行する方向にあると思うのだが。

(事務局) 第3期実績は9年6か月、第4期は4年と違いがある。数値的には下回っていない。

(委員) 「地域生活移行者数」と「施設入所者数」に開きがあるのはなぜか。

(事務局) 退所者と同時に入所者もいることや、地域移行以外の理由で施設を退所した人がいるためであると考えている。

(委員) 「地域生活移行者数」とは自宅に戻ることを指すのか。

(事務局) 自宅に戻る人とグループホームに移行する人数の合計となっている。

(委員) 第4期は3か年だが、数値をとる期間が4年間になっているのでわかりにくい。

(事務局) 国の指針と同様の形にしている。

(委員) 地域生活の移行先としてのグループホーム整備については取り組むのか。移行先がなければ目標達成が難しくなる。

(事務局) 民間業者によるグループホーム整備に対して補助に取り組む。福祉施設全体の整備方針を考える際に、この障害福祉計画も参考にしたい。

(委員) 自宅へ戻るよりもグループホームへ移行する方が人数的に多いのか。

(事務局) 数字は把握していない。

(委員) 岡山市としてグループホーム等を一カ所整備するということか。

(事務局) 一カ所だけを整備するというわけではなく、民間への補助を通してある程度増やしたい。

(委員) 新たに施設に入所した人は早期に退所し、施設に残っている人はずっと同じ人という実態があるのではないかと思う

- (委員) 障害者の就労として、いきなり一般就労ではなくA型やB型からの移行が多いのか。
- (事務局) プラン・計画の中ではそのように考えている。特にA型から一般就労への移行を進めていく。
- (委員) 計画の中でも定着支援に取り組むとあるが、実際には長期の就労につながっているのか。それとも1, 2年でやめてしまう人が多いのか。
- (事務局) 精神障害者の長期に就労されている方が離職する率が高いという全国調査がある。就労後6か月を超えると就労移行支援の定着支援の対象外となってしまう。
- (委員) 精神障害者の長期労働が難しいということか。
- (事務局) 職場や事業所の理解が十分でない場合も多い。利用していた事業所が長期に渡って関わった方が定着率は高い。
- (委員) 一般就労に失敗した場合には、元々いた福祉施設に戻ることはできるのか。
- (事務局) 個々人の支援メニューに応じて、戻ることが妥当と判断されれば戻ることもある。
- (委員) 岡山市としては、障害者の就労支援のどの部分の支援に取り組むのか。
- (事務局) 「福祉施設から一般就労への移行」、「企業と面接する機会の確保」、「就労後の定着支援」に取り組む。素案 p.25 に就労について記載してある。障害者雇用に関しては、何らかの形でハローワークが関わっている。また、『一般就労』とは企業等への就労として計画では目標値を設定している。
- (委員) 障害者の一般就労が伸び悩んでいる原因は何か。
- (事務局) 就労継続支援A型事業所を長期間利用する方が多いためではないかと推測しているが、データの裏付けはない。
- (委員) 計画作成件数がなかなか伸びてこない実態がある。相談支援事業所がもっと増えるとありがたい。
- (事務局) 相談支援事業所の増加は大きな課題として認識している。事業所の拡大、またはセルフプラン作成の呼びかけなどを進めていく。また、どの事業所でもプランを作成できる資格を持っている人が少ない。そこにどのような支援ができるか検討していく。
- (委員) 作成された計画を実際にこなす障害福祉サービス事業所等の数が不足しているのでは。
- (委員) 児童発達支援センターの役割について教えてほしい。
- (事務局) 自身も児童発達支援事業を行いながら、他の児童発達支援事業にノウハウを提供したり支援をしたりという中核的な役割を担う。
- (委員) 障害児相談支援は第3期実績とは大きく離れた見込み量を設定しているが、理由があるのか。
- (事務局) 障害児相談支援は計画相談支援の子ども版である。これから計画作成数を増やしていかなければいけないので、これくらいの見込み量を設定している。

(委員) 事業所によって支援内容に大きく差がある。親が助かるためではなく子ども本人のためのサービスなので、内容をしっかり充実させてほしい。

(委員) 岡山市としてサービスの内容の質は確認しているのか。

(事務局) サービスの質については、中核となる児童発達支援センターの研修などをおおして向上を図りたい。また、研修以外にどのように質の向上に取り組むのか、内部で検討したい。

(委員) プランの中に「資質の向上を図る」とあるが、具体的にはどのように取り組むのか。

(事務局) 素案 p.54 (オ) にあるように、事業所への研修などをおおして向上を図りたい。

(委員) 精神障害者への入院医療費助成について検討してほしい。身体障害や知的障害の場合と比べて負担が大きくなっている。

(事務局) 自治体間の差が激しく、岡山市はほとんど取り組めていない。検討していく余地があると考えている。

(委員) 「福祉に関するアンケート」でプラン・計画を考える時に一番活用した部分はどこか。

(事務局) 問34の現在利用しているサービスと今後利用したいサービスである。

(委員) 教育における医療的ケアが必要な時期が来ていると考えている。岡山市として体制作りに取り組んでほしい。

(2) その他

○岡山市から報告

- ・障害福祉サービスの受給者が65歳になり、介護保険の要介護者となった場合には、それまで受けていた障害福祉サービスに相当する介護保険サービスがある時は、法令によって、介護保険サービスを受けることになっているが、これに障害福祉サービスを上乘せするにあたっての現在の運用を見直して、障害の程度・サービスの利用状況・要介護度等、様々な要因を考慮しつつ、障害者の方一人一人の状況に応じた柔軟な対応ができるようにすることとするので、報告する。